

解体撤去工事中の温室効果ガス及び廃棄物等の排出状況について

2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価追跡調査（予測・評価）報告書（その5）では、解体撤去工事における温室効果ガス、廃棄物及び解体発生土の量を推計しています。また、地球温暖化防止行動計画及びガイドラインでは、その推計値を参考値として定めています。

ここでは、行動計画等に基づき提出された実施書等を元に、温室効果ガス、廃棄物及び解体発生土の排出状況を整理しています。

調査回収状況

地球温暖化防止行動計画及びガイドラインでは、工事機械の型式・使用台数、工事用車両の型式・使用台数、解体撤去工事により発生する廃棄物排出量、解体発生土の会場内再利用量等に関する事業実施結果を提出することとなっています。

解体撤去工事中で対象とした工事件数は51件であり、工事実施者から提出された実施書等の回収状況を取りまとめると、以下のとおり、全て回収しました。

調査票回収状況（平成17～18年度）

項目	調査対象工事数	調査票回収工事数	回収率
機械・車両の台数関連	51	51	100%
リサイクル計画関連		51	100%
廃棄物量関連		51	100%

温室効果ガスの排出状況

工事実施者から提出された実施書等を元に、解体撤去工事における温室効果ガスの排出状況を取りまとめると、以下のとおり、CO₂、CH₄、N₂Oの排出量について、全て参考値を下回りました。

解体撤去工事における温室効果ガス調査結果（平成17～18年度）

（単位：t-CO₂）

項目		瀬戸会場	長久手会場	その他	合計		参考値
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	工事機械	612.1	2,226.5	455.3	3,293.9	3,372.5	4,032
	工事用車両	20.4	28.0	30.2	78.7		
CH ₄ 排出量 (t-CO ₂ *1)	工事機械	0.7	2.6	0.5	3.9	22.4	69
	工事用車両	0.0	0.0	0.0	0.1		
N ₂ O排出量 (t-CO ₂ *1)	工事機械	3.2	11.6	2.4	17.2		
	工事用車両	0.2	0.5	0.5	1.2		
合計		636.7	2,269.3	488.9	3,394.9		4,101

*1 地球温暖化係数を乗じたCO₂相当数量

注) 小数点第2位で四捨五入しているため、合計値が一致しない場合があります。

廃棄物の再資源化率及び排出状況

工事実施者から提出された実施書等を元に、解体撤去工事中における、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊及び建設発生木材の再資源化率の状況を取りまとめると、以下のとおり、全て目標値を達成しました。

解体撤去工事中における再資源化率実績（平成 17～18 年度）

項目	瀬戸会場	長久手会場	その他	合計	目標値
コンクリート塊	100%	100%	100%	100%	95%
アスファルト・コンクリート塊	100%	100%	100%	100%	95%
建設発生木材	100%	99%	88%	98%	95%

また、工事実施者から提出された実施書等を元に、解体撤去工事中における廃棄物の排出量及び再資源化後の排出量（特定建設資材を含む。）の状況を取りまとめると、以下のとおり、参考値を下回りました。

廃棄物排出量（特定建設資材廃棄物含む。）（平成 17～18 年度）

（単位：t）

項目	瀬戸会場	長久手会場	その他	合計	参考値
総排出量	24,536.8	163,046.8	107,299.3	294,942.9	387,108
再資源化後の排出量	1,374.5	6,312.5	1,459.6	9,146.6	23,296

注）特定建設資材：コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊及び建設発生木材。

解体発生土の再利用率等

工事実施者から提出された実施書等を元に、解体撤去工事中における解体発生土の発生量、会場内再利用率及び処分量の状況を取りまとめると、以下のとおり、解体発生土の発生量は、参考値を上回りましたが、発生土をできる限り会場内で再利用することにより会場内再利用率は、参考値を上回りました。また、解体発生土の処分量については、参考値を下回りました。

解体発生土の再利用率等（平成 17～18 年度）

（単位：m³）

項目	瀬戸会場	長久手会場	その他	合計	参考値
発生量	32,610	118,573	108,088	259,271	約 230,000
会場内再利用率	15,680	85,683	99,698	201,061	約 150,000
処分量	16,930	32,890	8,390	58,210	（約 80,000）

注）処分量とは、解体発生土の発生量のうち廃棄物として最終処分した量。